

2020.10.4 年間第 27 主日

## わたしたちの目には不思議

マタイ福音書 21:33-43

(イエスは祭司長や民の長老たちに言われた) 「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。さて、収穫の時間が近づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫たちのところへ送った。だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』そして、息子を捕まえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、

これが隅の親石となった。

これは、主がなさったことで、

わたしたちの目には不思議に見える。』

だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。」

説教

わたしたちは自分が努力することで得たものや得たことは、自分の手柄だと

思います。働いた成果を誇りたくなります。努力もしないで成果が得られなければ反省したり、悔やんだりします。またろくに働きもしないのに成果だけはあがることもあります。

わたしの経験上、がんばって仕事すると結果がでず、ギャクにたいしたこともしないのに、成果があがることがしばしばありました。どうしてだか理由がわからないまま、ばくぜんと「世間様のおかげ」と感謝していました。わたしもずいぶんトンチンカンな男です。マタイを読んでいれば「わたしたちの目には不思議に見える」と感謝することができたのになあ、ちょっと残念です。

きょうの福音はぶどう園のはなしの3幕目、マタイのぶどう園三部作の最終回です。コロシが何度もでてくる物騒なはなしですが「隅の親石…」というむすびで唐突に終わります。

**イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。」**

**『家を建てる者の捨てた石、**

**これが隅の親石となった。**

**これは、主がなさったことで、**

**わたしたちの目には不思議に見える。』マタイ 21:42**

聖書の引用元はこれです。

**家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。**

**これは主の御業／わたしたちの目には驚くべきこと。詩編 118:22-23**

福音を聴いているとふつうは良いことのように思えることが実は悪いことだったり、悪いことが良いことであるようにも感じます。

主のみこころを知ることができますように。たとえ知ることができなくても、わたしたちの目には不思議に見えると気づくことができますように。わたしたち一人ひとりが、主がお配りになったデナリを手にして、主の照らす道を歩めますように。

-----